

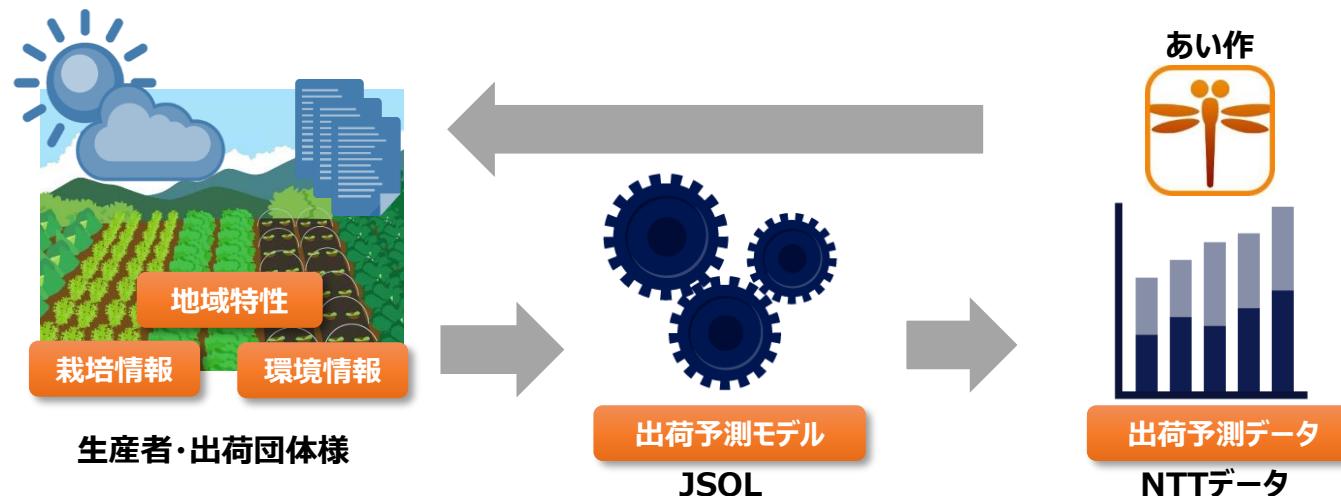


## 出荷予測モデルの活用について

株式会社NTTデータ  
戦略ビジネス本部 食農ビジネス企画担当

# 出荷予測の取り組み概要

産地（生産者・出荷団体）にてお持ちのデータの統計的特徴から「出荷予測モデル」を設計し、営農支援プラットフォーム「あい作®」を通じて、農作物の出荷予測（出荷量・出荷時期の予測）を行い、生産計画・出荷管理の高度化を実現します



## 背景

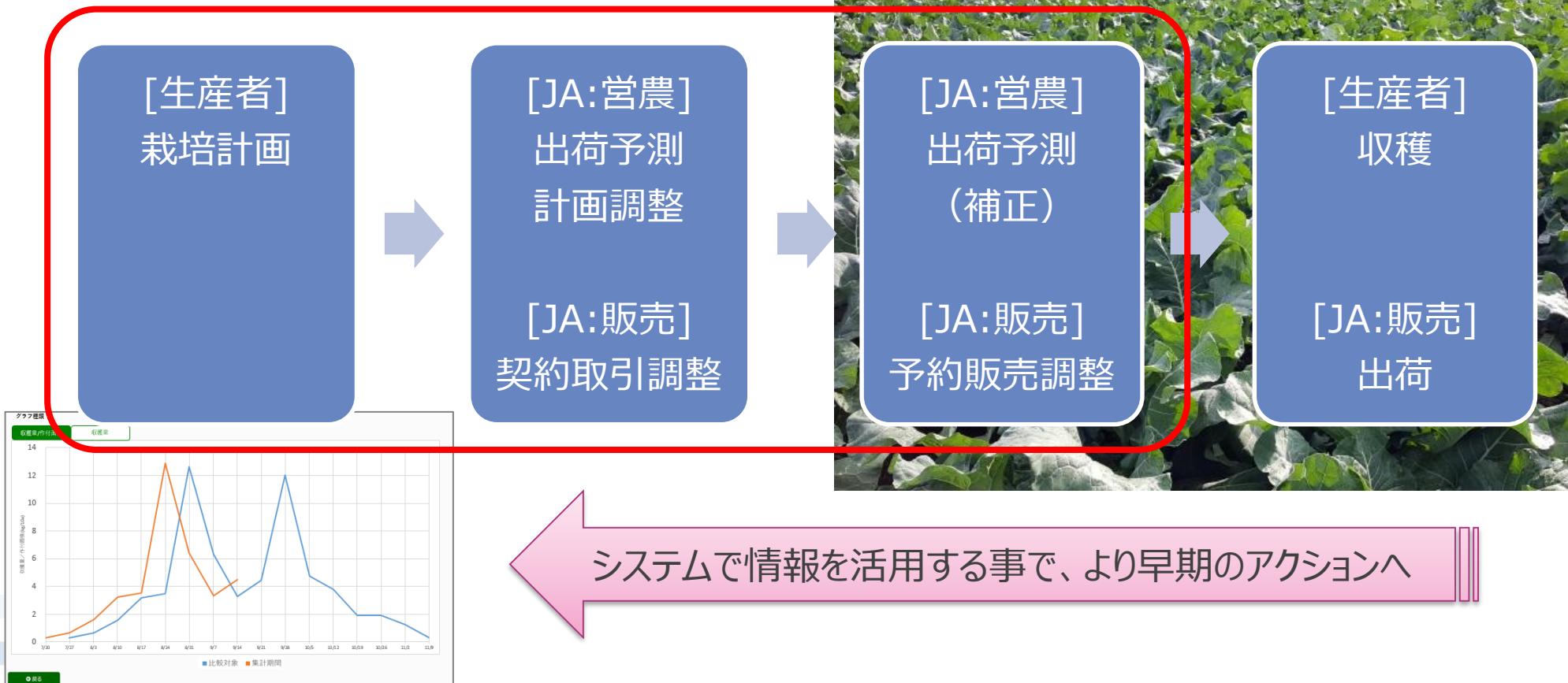
- 露地作物の栽培は、天候の影響を大きく受け、出荷量、出荷時期は年により変動するため、市場の需給バランスへの影響も大きく、農家の所得に対する影響も小さくありません。
- 産地全体の出荷量を予測するには、ベテランの知見と、圃場(ほじょう)・地域ごとの生育傾向把握の調査や情報収集が必要となり、多くの時間を費やします。しかし、担い手の高齢化・労働力の減少などから、新たな営農技術体系の構築が急務となっています。

## 目的

- 露地栽培における歩留まりを含め統計分析で出荷量を予測し、経験の浅い担当者でも、事前に出荷見込を把握を可能にする事。
- 営農指導担当者が出荷予測結果に対して適宜補正を加えられるようにし、より精度の高い見込値の把握を可能にする事。
- 予測した数値を元に販売戦略への活用や、集出荷業務の適正な要員計画、生産計画の作成に生かし収益向上を実現する事。

# 出荷予測の運用イメージ

従来の運用では時間的・稼働的に実施が難しかった運用を、「あい作」という道具を使うことで、生産者・JA営農担当者・JA販売担当者が連携をして実現しようとしています。



# 進め方（例）

産地でのこれまでの取り組み状況や、出荷予測の目的（計画シミュレーション・出荷見通しモニタリング・出荷業務全体の高度化）と、出荷団体・生産者保有のデータ、対象品目の栽培カレンダーを確認させていただいた上で、ご提案いたします。

	初年度 ※4月開始の例				2年目
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4月-
出荷予測モデル設計のコンサルティングサービス	データ授受・確認 →	1.出荷予測モデルの設計・データの分析 →	2.出荷予測モデルの検証 →	3.出荷予測の運用設計・導入 →	4.出荷予測の運用・高度化 →
出荷予測機能サービス（あい作の利用）	出荷団体・生産者業務へのあい作導入 →	選定した地区で運用・生育実績データ取得・蓄積 →		出荷予測機能運用 →	
ご協力依頼等	過去データ提供 →				
	試験場等への協力打診 →				

## 出荷予測モデル設計コンサルティングサービスメニュー

### 1. 出荷予測モデル（ベースモデル）の設計・データの分析

栽培履歴書や、出荷予定・出荷実績データ、品種・エリア・農家の特性等からデータ分析し、ベースモデルを設計します。

### 2. 出荷予測モデルの検証

設計したモデルが実用可能か、最新の生育・出荷データにて確認し、実用可能性を評価します。

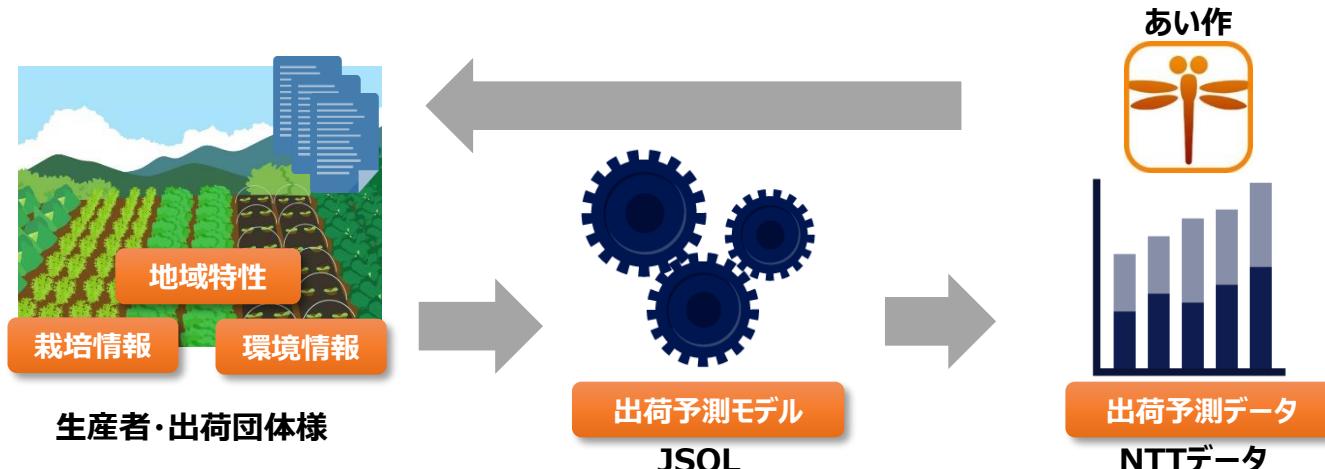
### 3. 出荷予測の運用設計・導入

栽培・集出荷業務と活用可能なデータをもとに、出荷予測の運用設計を行い、出荷予測システムを導入します。

### 4. 出荷予測の運用・高度化

出荷予測機能を実業務上で運用し、結果を分析、運用方法の見直し・高度化を行います。

# 役割分担（例）



出荷団体様	生産者様	NTTデータ JSOL
<p>出荷予測モデルの設計に活用可能なデータの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 産地特性・品種特性</li> <li>- 栽培予定・実績</li> <li>- 出荷予定・実績</li> <li>- 環境データ（気象データ）</li> </ul> <p>※過去3～5年分、すべて電子データでご提供をお願いしております。</p> <p>あい作の利用 出荷予測の利用</p>	<p>あい作の利用 (栽培記録の登録) 出荷予測の利用</p>	<p>あい作の提供 あい作の導入支援 既存データのアセスメント 出荷予測モデルの設計 出荷予測モデルの検証 出荷予測の運用設計</p>



本資料には、弊社の秘密情報が含まれております。  
弊社の許可なく第三者へ開示することはご遠慮ください。